

JAXA、21年飛行士募集

13年ぶり、ベテラン増加で

宇宙航空研究開発機構（JAXA）と文部科学省は23日、2021年秋ごろに新たな宇宙飛行士数人の募集を開始すると発表した。詳細は未定だが08年以来、13年ぶりの募集となる。都内で記者会見した飛行士でJAXA特別参加の若田光一さん（57）は「若い人にぜひ月探査を担ってもらいたい」と呼びかけた。



宇宙飛行士の募集開始について、記者会見する宇宙飛行士の若田光一さん=23日午後、文科省

JAXAの定年は60歳。歳とベテランが多く、10年7人の現役飛行士は平均51歳とベテランが多く、10年後も現役なのは大西卓哉さんが課題となっている。

米国の飛行士は平均49歳、ロシアは同45歳で、採用も数年ごとに実施している。日本はこれを見習って、これまで2年半〜10年置きと不定期だったのを改め、5年に1回といった一定の頻度での募集に切り替える。

日本は現在、国際宇宙ステーションに飛行士を送っているほか、20年代後半にも日本人初の月面着陸を目指す。前回の応募条件は「日本国籍を持つ人」「自然科学系の大学卒業以上」「研究などで3年以上の実務経験がある」など。

JAXAによると、飛行士候補に選考された後、約2年の基礎訓練を経て正式に飛行士として認定される。宇宙へ飛び立つには、現状は選考から最短約4年かかる。

日本は現在、国際宇宙ステーションに飛行士を送っているほか、20年代後半にも日本人初の月面着陸を目指す。前回の応募条件は「日本国籍を持つ人」「自然科学系の大学卒業以上」「研究などで3年以上の実務経験がある」など。

JAXAによると、飛行士候補に選考された後、約2年の基礎訓練を経て正式に飛行士として認定される。宇宙へ飛び立つには、現状は選考から最短約4年かかる。

日本は現在、国際宇宙ステーションに飛行士を送っているほか、20年代後半にも日本人初の月面着陸を目指す。